平成２８年度　熊本県教育委員会指定・八代市教育委員会委嘱

「生きる力」を育む研究指定校
（学力充実研究推進校）
授　業　公　開

研究主題

確かな学力を身に付け、

生き生きと学習に取り組む児童の育成

～主体的・対話的な学びのある授業づくりを通して～

平成２９年２月７日

八代市立麦島小学校

＜研究主題＞

確かな学力を身に付け、生き生きと学習に取り組む児童の育成

～主体的・対話的な学びのある授業づくりを通して～

◎　主題設定の理由（本校の児童の実態に特化して）

＜H27 年度県学力調査より＞

- 各学年とも、国語・算数において、総合的に県平均を下回っている。
- 国語においては、「言語事項」に関する内容、知識面の定着に課題が見られる。
- 算数においては、知識と活用の両方において課題がある。

＜標準学力検査 NRT より＞

- 平均的に期待できる学力と、実際の平均学力を対比させた結果は、全体的にその期待水準を満たしておらず、知的好奇心を育ませる必要がある。
- 成就値の高い児童の割合は、理論比よりも１割程度少なく、学業促進児童は少ない。本校で学力不振と思われる児童は、全国比で１割程度多く、全体的に学業志向性を培う必要がある。

＜本校の実態より＞

- 児童同士の関わりが不足したり、思いを伝えられなかったりする場面が多く見られる。
- 自分の考えを整理して分かりやすく表現することを苦手としている児童が多い。
- 基礎的・基本的事項の定着や身に付けた知識や技能を活用して問題を解決する能力に課題があり、課題解決の場面で意欲が低下する児童が多い傾向がある。
- 学習規律（話の聞き方、話し方等）の定着に課題がある。
- 家庭環境の多様化により、基本的な学習・生活習慣の定着の個人差が大きい。

◎めざす方向性

主体的・対話的な学びのある授業づくりを軸とした取組を通して、児童一人一人の確かな学力の育成をめざす。

【確かな学力の育成に向けた３つの視点】

仮説１	仮説２	
【視点１】 魅力ある授業づくり	【視点２】 学び合う集団づくり	【視点３】 学習環境・習慣づくり

◎めざす児童の姿

- 思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童
- 互いの思いや考えを理解・共有し、尊重し合える集団をつくろうとする児童
- 基礎的・基本的な知識や技能、学習・生活習慣を確実に身に付けた児童

麦島小学校　研究構想図

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領等

学校教育目標

夢を持ち、心豊かでたくましく、

自ら考え、学び合う麦島っ子の育成

・熊本県教育委員会
各課取組の方向
・八代教育事務所取組の
重点
・八代市教育委員会
学校教育推進の基本方向

研究主題

確かな学力を身に付け、生き生きと学習に取り組む児童の育成
～主体的・対話的な学びのある授業づくりを通して～

仮説１　授業において、アクティブ・ラーニングやＵＤの考え方を生かした課題設定や学習過程、発問など、魅力ある授業づくりに向けた授業の工夫・改善を行えば、確かな学力を身に付け、意欲的に学習に取り組む児童が育つであろう。

仮説２　学び合う集団づくりや学習環境の整備・学習習慣の定着のための手立ての工夫を行えば、生き生きと学習に取り組む意欲や態度をもつ児童が育つであろう。

視点１　魅力ある授業づくり

（１）アクティブ・ラーニングや学びのＵＤ化の視点を生かした「麦島授業スタイル」の確立
つかむ（学びの焦点化）　考える（思考の可視化）
深める・広げる（思考の共有化）　ふり返る（学びの可視化）
（２）対話の充実を図る基本話型の作成

視点２　学び合う集団づくり

（１）アンケートＱ－Ｕによる学級集団の実態把握と改善に向けた取組
（２）学級会活動の充実
（３）児童会活動と関連付けた取組

確かな学力の育成

視点３　学習環境・習慣づくり

（１）学年毎の掲示板の活用
（２）基礎的・基本的事項及び活用力を育成するための取組
（３）基本的な学習態度の育成に向けた取組
（４）読書活動の充実
（５）小中一貫・連携による生活リズムチェックの取組

人権同和教育及び特別支援教育の視点に立った授業づくり

児童の生活体験や実態

視点１　魅力ある授業づくり

＜主体的・対話的な学びのある授業づくりを展開するために＞

① アクティブ・ラーニングや学びのＵＤ化の視点を生かした「麦島授業スタイル」に沿った授業展開
② 児童の学習意欲を引き出すための導入や見通しを持って課題に取り組むための工夫
③ 児童が自分の考えを深め、広げたいという必要感を持って取り組む対話の工夫
④ 児童が１単位時間を通して、学びの変容や本時の学び、次時への見通しを実感できるふり返り

１　つかむ（学びの焦点化）

児童の生活体験等と関連づけた学習課題を設定し、意欲を高めます。

学習課題解決に向けて、目標の焦点化を図ります。

１　本時の学習を知る。
・教科書 P190 の「進み方」を読む。
・11 月におこなった「三あエンブレム」の三人の推薦をもう一度、聞く。
・学級代表選出が難しかったことを思い出す。

○　今日の学習の[illegible]と見通しを共有する。
・学習課題「児童会公認キャラクターにふさわしい作品を学級で一点選ぶ」ことを確認する。
・11 月の推薦では、学級代表を選ぶのが難しかった。
・推薦理由が色だったり、文字を入れるか入れないかだったり、バラバラだから学級代表を推薦できなかったね。
・ものさし（視点）が、なかった。
・今回は、推薦するためのものさし（視点）を決めよう。

めあて
どんな視点で推薦するのか、そのものさしを決めよう。

（１）　視覚的に課題をとらえさえる工夫

ＩＣＴ（デジタル教科書等）を活用し、視覚的に学習課題を把握できるようにします。

（２）　単元全体を見通して学習を展開する工夫

活動の流れを意識させることで、単元全体を見通した学習を展開しています。

２　考える（思考の可視化）

（１）　課題解決への見通しを持たせる工夫

ノートや教科書、掲示物等を活用して、既習の学習内容をふり返ることで、解決への見通しを持たせていきます。

（２）　ヒントカード等を活用した支援の工夫

ヒントカードや個別支援等を通して、課題解決が困難な児童のサポートをします。

３　深める・広げる（思考の共有化）

リーダーが中心となり、考えを書いた付箋を貼りながら思考を深めていきます。

（１）　学びを深める対話の工夫

ペアやグループで互いの考えの同じ所や違う所を伝え合い、理解を深めます。

「ワールドカフェ」などの方法で互いの考えを交流し合い、用紙やボード等に出された意見をまとめていきます。

（２）　目的に応じた学習形態の工夫

【ペアトーク】

ペアで互いの考えを交流します。相手を変えながら交流し合うことで、児童が自分の考えをさらに広げ、深めていきます。

【グループトーク】

４人程度のグループで互いの考えを交流します。進行役が中心となって、考えを交流し合います。視点に沿って気付きや質問を出し合ったり、意見をまとめたりします。

【全体で交流】

全体で考えを交流し合い、互いの考えを深めていきます。その際、教師はコーディネーター的な役割を果たし、児童相互の交流が促進できるようにしていきます。

＜思考を共有化するための学び方の例＞

○　ワールドカフェ　　○　ブレインストーミング　　○　マインドマップ

４　ふり返る（学びの可視化）

【ふり返りの３つの視点】

（１）学習内容の理解　（２）次の目標

（３）学習を通しての自分の変容

- 低学年は、挙手による評価や発表によるふり返りを中心に行います。
- 中学年以上は、文章記述によるふり返りを行います。それを交流し合い、互いの学びを認め合うことで、次時への意欲を高められるようにします。

次にがんばりたいこと

本時の学習でできたこと
分からなかったこと

視点２　学び合う集団づくり

＜児童の主体的・対話的な学びの土台となる学校・学級集団づくりのために＞

① アンケートＱ－Ｕの分析等を通した学級集団の実態把握と主体的に物事に取り組む態度や能力、他者との関わり方を身に付けるための取組

② 学級会活動や児童会活動と関連付けながら、自分や学校・学級集団への肯定的な心情を育み、自他の存在を認め合える支持的風土の醸成を図るための取組

１　アンケートＱ－Ｕによる学級集団の実態把握と改善に向けた取組

	分　析	具体的実践
１Q-U の結果	不満足　群	
２考察 ・要支援、不満足に属する児童の状況	・不満足群に属する児童が１８名おり、その中で要支援に属する児童が４名いる。	・クラスのめあてのふり返りを毎日行う。それを視覚化して示すことで、クラスの状態が確認できるようにする。
・満足群に属する児童の状況 ・その他	・満足群に属する児童が４名である。ただ、他者との関わりが十分持てていない面も見受けられる。 ・全体的に学級に満足していない状況が見受けられる。	・クラスをよりよくするための活動を互いのアイディアを生かして考え、実行すること（会社活動）を進める。 ・互いをよりよく知り合うための活動（ペアトーク、褒め褒めシャワータイムなど）を進める。

夏季休業中に、アンケートＱ－Ｕの分析等について研修を行いました。そして、各学級の分析結果と改善について各学級毎にまとめ、ファイルを作成しました。

２　学級会活動の充実

＜主体的に学級づくりに参画する態度や能力、他者との関わり方を育てるために＞

①　アンケートＱ－Ｕの分析結果を子どもたちに提示し、学級の課題とその改善に向けた取組を話し合うための学級会を全校で行いました。

②　児童の相互理解を深めるために、毎日テーマを決めてペアで話す取組を行っています。

３　児童会活動と関連づけた取組

（１）　学級の旗づくり

各学級で話し合って旗を作成し、児童集会で紹介後、教室に掲示しています。

（２）　学級の自慢大会

３つの項目で学級の自慢を紹介することで、学級への所属感、肯定感を高めています。

視点３　学習環境・習慣づくり

＜児童の主体的・対話的な学びの土台となる基本的な学習習慣や生活習慣を身に付けるために＞
① 掲示板や広場の活用による学習環境の整備
② 基礎的・基本的事項の確実な定着及び身に付けた知識や技能を活用する能力の育成に向けた取組
③ 小学校と中学校、家庭や地域と連携した取組

１　学年毎の掲示板の活用

レベル毎に漢字の練習ができる漢字コーナーです。

２　基礎的・基本的事項及び活用力を育成するための取組

（１）麦小タイム

- 朝自習の時間に国語と算数に関する基礎的・基本的事項の習熟のための学習を行っています。
- 学年毎に学習内容を統一して取り組んでいます。

（２）麦っ子タイム

- 毎月最終月曜日と火曜日に活用力育成のための時間を設定しています。
- ゆうチャレンジの単元別評価問題や課題克服プリント、アシストシートを用いて学習に取り組んでいます。

３　基本的な学習態度の育成に向けた取組

児童の学習の基礎となる学習規律の定着に向けて、全校で統一して取り組んでいます。

４　読書活動の充実

（１）読書の広場

（２）麦っ子の会によるお話会

- 各学年棟にある広場に国語の関連図書等を整備し、読書に親しむ環境づくりをしています。
- 毎月第３木曜日の朝自習は、「麦っ子の会」の方々による読み聞かせがあり、年に一度の１単位時間を使った本格的なお話会もあります。

５　小中一貫・連携による生活リズムチェックの取組

≪チェック項目≫
① 起きる時刻
② 朝ご飯を食べる
③ 学習する時間
④ メディアの時間
⑤ 運動（外遊び）
⑥ 夜の歯みがき
⑦ 寝る時刻

基本的な生活習慣の定着を目指して、２ヶ月に１回、中学校区で統一して取り組んでいます。

≪研究の成果と課題≫

【成果】

1　仮説１について

○　児童向けに実施した学習に関するアンケートでは、７項目全てにおいて「よくできる」「だいたいできる」を合わせると７割以上の児童ができていると実感していることから、多くの児童が研究の視点に沿った授業に対して肯定的に受けとめていることが分かる。

　特に、「意欲的に学習に取り組む」、「毎時間のめあての理解」、「学習のまとめ」、「対話による思考の深化」の項目で８割以上の児童ができていると感じていることが分かる。

○　教師向けに実施した学習に関するアンケートの結果から、研究の視点を意識した授業が概ね展開できていることがうかがえる。

○　「児童が安心して自分の考えを言えるようになってきた。」等の校内研修の職員のふり返りからも、教師・児童ともに授業に取り組む意識が少しずつ高まってきていると考える。

2　仮説２について

○　児童相互の人間関係づくりのための取組や学習環境の整備、学力充実に向けた取組等を通して、職員が自校の課題を共通理解し、その解決に向けた共通実践をする体制が少しずつ整ってきている。

【課題】

1　仮説１について

●　これまで、児童の主体的・対話的な学びを保障する授業の基盤づくりに力を入れてきた。授業における短時間での学習目標の焦点化、全ての児童に学習課題解決への見通しを持たせる工夫、対話の形骸化を防ぎ思考を深める対話のあり方、ふり返りの時間の確実な確保とふり返りの質の向上など、アンケート結果や校内研修の職員のふり返りから見える課題がある。その解決に向けて、全ての児童がより主体的に学ぶことができる質の高い授業づくりを目指して、さらに研究を深めていく必要がある。

2　仮説２について

●　学級会活動等に全校あげて取り組んでいくことで、主体的・対話的な学びの基盤となる児童相互の良好な人間関係づくりを、さらに進めていく必要がある。

●　学習規律等の学習習慣や生活習慣については、取組が十分とは言えず、まだ定着には至っていない。今後は、その定着に向けた児童への内発的動機付けのための取組の充実等、さらに共通理解・共通実践を行っていくとともに、家庭と連携した取組を進めていく必要がある。